

和痛分娩 オリエンテーション

JCHO北海道病院 産婦人科

同じ内容を動画でも配信しています。
ご覧ください。



当院の和痛分娩

麻酔科医協力のもと和痛分娩を行っています。
そのため、計画外の和痛分娩は行えません。
また、和痛分娩のため陣痛の痛みを和らげますが、
完全にはなくなりません。
上記をご了承お願いいたします。



入院前の準備

- ネイルを外してください。
- 指輪やアクセサリー類は外してください。
- 和痛分娩当日はノーメイク、コンタクトを外してください。
必要な方はめがねをご持参ください。

入院後の流れ

- 4階南ナースステーションへお越しください。
- 病衣に着替えます。
- 胎児心拍モニターを行います。
- 診察を行い、必要時子宮の入り口を広げる処置を行います。
- 麻酔科から分娩当日の麻酔について説明があります。
- 変わりがなければ次の日の朝までお部屋で過ごしてもらいます。

分娩当日の朝

- 体調チェックをします。
（体温、血圧測定、問診）
- 7時に軽食を食べて、それ以降は絶食です。
- 飲水は可能です。
- 分娩着に着替え、分娩室（LDR）に移動します。
- 分娩室で胎児心拍モニターをつけます。
- 8:30頃、医師の診察後、誘発分娩を始めます。



分娩当日

- ・9時に分娩室で背中に麻酔の管を入れます。
- ・麻酔中は、心電図モニターを装着します。
- ・ベッドの上で横になり背中を丸くして、麻酔の管を入れていきます。
- ・麻酔の効き方、副作用を確認します。

*** 足の力が入らなかったり、足の感覚が鈍くなる場合は転倒する可能性があるため、初めての歩行は必ずスタッフが付き添います。**



硬膜外麻酔による副作用

- ・足の力が入りにくくなる。
- ・血圧が下がる。
- ・排尿感が弱くなる。
- ・体温が上がる。
- ・吐き気が出る。
- ・かゆみが出る。

* これらは一時的なもので、薬効が無くなれば消失します。

* 赤ちゃんへの副作用はほとんどないといわれています。

* **気になる症状がありましたら、スタッフにお知らせください。**



分娩中

- ・胎児心拍モニターを継続してつけます。
- ・硬膜外麻酔が入っている部分に異常がないかみせてもらいます。
- ・陣痛が強くなり、子宮口が開いてきたら硬膜外麻酔を開始します。

*** 痛みがあっても分娩進行状況によっては麻酔を使用せず様子を見ることがあります。**



分娩中

- ・麻酔使用中は、心電図モニターを装着し、定期的に血圧測定します。
- ・麻酔使用中は、分娩台の上で過ごします。
- ・歩行は転倒の危険があるため、トイレの際は管で尿をとります。



歩くことはできません。



ベッドの上ではどのような姿勢でもOKです。

- ・ずっと同じ姿勢は避けてください。
- ・15分に1回は姿勢を変えてください。

分娩中

- ・麻酔を使用しても、分娩進行を妨げず、いきめるように痛みはある程度残します。

- ・こまめに痛みの確認をします。

- ＊ 想像できる最悪の痛み（前回のお産の一番痛いとき）を10とするならいくつかで確認します。

麻酔は痛み2～3程度（生理痛程度）で調整します。

分娩中こんなときはナースコール

- ・足が動きにくい。
- ・吐き気がする。
- ・何か出てきた感じがする。
- ・おしりが押される感じ、「うんち」にいきたい感じ、いきみたい感じがある。
- ・痛みが急にでてきた。



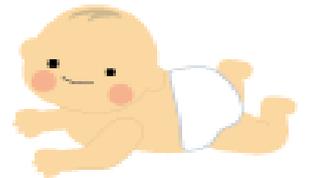
まずは、ナースコールしてください。

分娩におけるリスク

- ・赤ちゃんが生まれてくるまでの時間が長くなり、赤ちゃんが生まれる際、吸引などの機械を使う頻度が高くなります。
- ・児が生まれる際に多くのスタッフや医師が携わります。

産後

- 分娩終了後、硬膜外麻酔を抜きます。
- 産後2時間は分娩室で体調確認します。
- 体調変化しやすい時期なので、ベッド上で安静にしてください。
- 体調が問題なければスタッフの付き添いのもとトイレ歩行します。
- 体調や歩行に問題がなければ、お部屋に移動します。



最後に

何か心配事や不安がありましたら、
いつでもスタッフにご相談ください。

